

荒
鷺

第四十号

福岡大学学術文化部会書道部

第四十号『荒鷲』発刊にあたって

この度、我が部の機関誌であります『荒鷲』が発刊できますことは、私達部員にとりまして誠に喜ばしいことです。

私達書道部は昭和三十五年以来、目覚しい発展を遂げ現在に至っています。現在ワーフロやハソコンが発達して筆を持つ機会が少なくなってきたこの時代に私達は何をすべきかを考え書技向上・親睦融和・書道文化の普及に努めるのが我々書道部だと考えております。

最後になりましたが、『荒鷲』第四十号発刊に際し、多大なるご尽力を賜りました諸先輩方、関係者各位に厚く御礼申し上げます。

第三十九代幹事 三好 幸弘

第三十九代 書道部基本方針

我々書道部は、今日までつちかわれてきた先輩方の伝統を活かし、「思いやり」を基調とし団結を深めることよって部を活気あふれるものとし、部員相互の親睦融和をはかる。又、自主的、意欲的に練習、行事に取り組むことで書技向上を目指していく。

発刊にあたって	1
第三十九代基本方針	2
巻頭詩	3
福岡大学書道部展 展示作品	5
特別寄稿	17
部長 青木 文夫	18
講師 大原 蒼龍	19
書心会会長 柴田 一夫	20
平成七年度卒 牧本 朋子	21
学術文化部会常任幹事長 小川 賢樹	22
運営委員長	22
部員寄稿	24
「結婚」	25
「経済について」	27
「こだわり」	30
「夢」	34
「福大書道部に入部して」	38
「世紀末」	40

自由投稿	44
年間行事	49
福岡大学学術文化部会書道部規約	53
福岡大学書道部書心会規約	55
部員名簿	57
書心会員名簿	58
平成十一年度書道部及び書心会役員名簿	75
編集後記	79

のちのちのちのち

のちのち

のちのちのちのち

のちのちのちのち

のちのちのちのち

のちのちのち

のちのちのちのち

のちのちのちのち

のちのちのちのち

のちのち

のち

巻頭詩



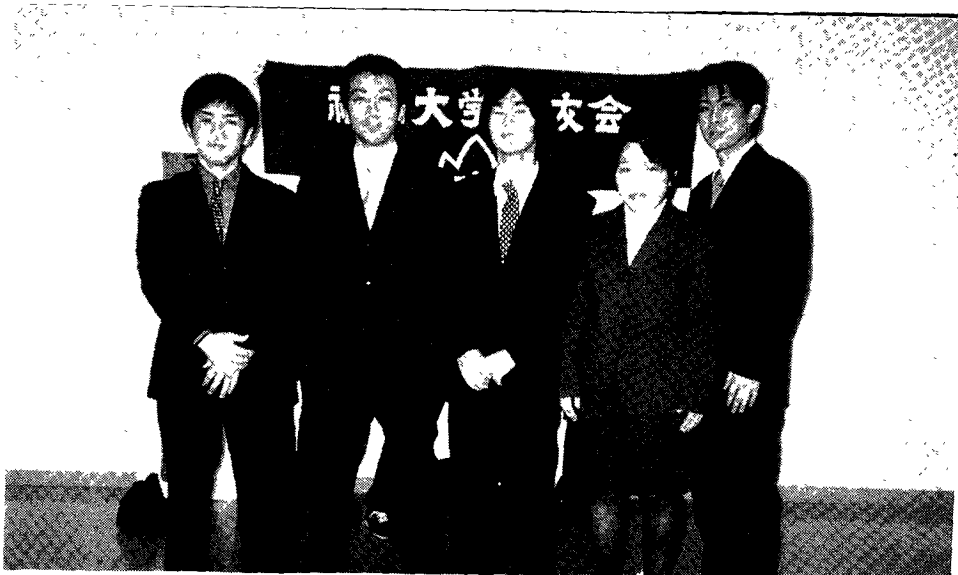
部長 青木 文夫



書心会会長 柴田 一夫



講師 大原 蒼龍



第三十九代 役員一同

福岡大学書道部展

作品展示

白 懋 女 郎

愛 田 日 原 大 井

黃 越 守 用

米 不 治 心

一回生 神山 まい

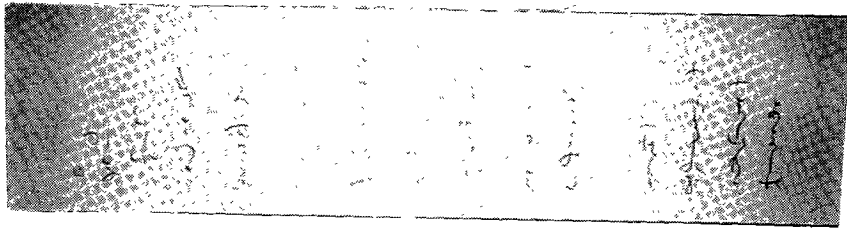
一回生 藤本 寛子

分止右扶風或在安定或蒙或都或居
隴西或家敦煌枝の葉布所在為雄
君高祖父教舉孝廉或威長

音 觀

正仰く映射千七限道
預勝之之海麻美可也

一回生 山手 麻美



一回生 玉川 美穂

有
家
夢
主
世
似
花
香
塵
理
已
濃
霜
結
雪
二
林
葉
一
落
千
山
空

一回生 岡田 貴子

幸
月
永
照
起
亦
輝
林
星
白
如
魚
共
滄
第
塵
塗
思
精
心
夢
世
之
物
亦
盡
未
況
佳
音
弥
滿
彼
良
快
林
生
增
快
不
隸
於
因
全
至
君
且
盡
殊
之
以

一回生 古堅 瞳子

一回生 松尾 高嗣

夫人姓孟字敬
訓清河人也蓋
中散大夫之幼
女陳郡府君之
季妹夫人

馬利在江

二回生 松下 翔雲 (健太郎)

天地人者其偏矣唯能理事正而各異觀去其
真山門歎意人之受之霞北刺之內陶乎教化
之中具其形服其服用其器而於其別也

二回生 三好 嵐舟 (幸弘)

其終為梅月長江萬里情真良午整衣信盡
此年送尔難不辭 杯惜未傾漸遠終平地
西行所送日暮人在枯陽浴信 幸弘撰

二回生 槻木 神海 (和孝)

雲 龍 飛 迹
飛 龍 迹

神海

二回生 龜山 芳蘭 (知美)

珠履猶三主 象鳳烟如五津 白若離別
意同是宦遊人 海內存知己 天涯若比鄰 是
如主情切 兄女甘 中 乙 丙 映行 是物 芳蘭書

二回生 太田 天州 (真文)

香 醉 於 林 是 汝

道 彩 以 凌 九 霄

四回生 山根 磐静 (芳子)

利刃疾王
且經申
芳子

四回生 荻原 夕華 (裕子)



兼聽獨斷

二回生 川原 青海 (敦志)

之六六六六六六
陸村土河小舞徑

惟若志先後二

土但短前快日

積會微乎八十

年中心世想經如

考其弟友秋有

才以同其二月年

心未似可其何云云

系似在久推有

當主大為以心年

財為以守六保

查為上往去但為

相林

四回生 佐田 穗苑 (美穗)



四回生 石橋 博沾 (幸恵)

吾風春

儀其所以陳

說釋法以札

節起先生少

是口持思承

長樹林漁條

如喜世其之也

身業陶 元

能而給 孰

石二博 新

我三博 承

之也

之也

中微願非道境存中... 看處老百偶... 新... 中... 此... 昭

昭和四十三年度卒 平井 栖空 (晴彦)



昭和五十一年度卒 荒尾 記史朗



昭和五十八年度卒 満生 憲親



昭和六十二年度卒 白糸 林太郎

相息性道在誰 不其知貧歸 誰合殘雨
 倚身別 而人云明如杏眼 曉花陰存
 孝亦有棲 深之言行年可窮 身之可道也

平成十年度卒 平 東運 (由美子)

東運 學子故 知榮貴 學餘 亦不神 滿以備一 新書 爲之 賦
 在 世 體 履 之 陳 唯 應 和 五 限 智 在 港 口 無 一 處 皆 爲 善 事
 於 東 運 亦 前 顯 乎 而 將 湖 水 之 能 然 志 日 生 路 限 日 爲 之 善
 今 何 才 可 成 道 路 在 世 體 履 之 陳 唯 應 和 五 限 智 在 港 口 無 一 處 皆 爲 善 事

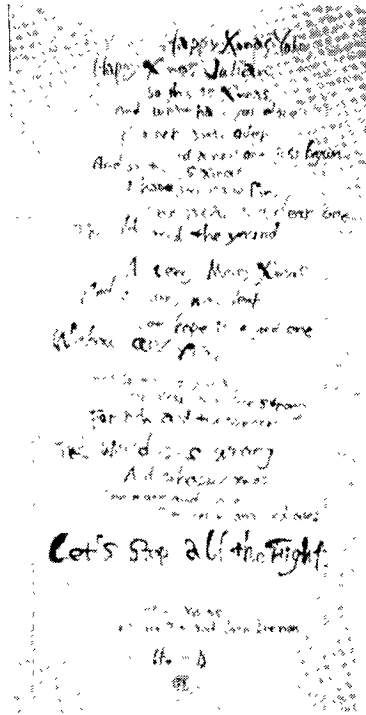
昭和五十八年度卒 滿生 憲親



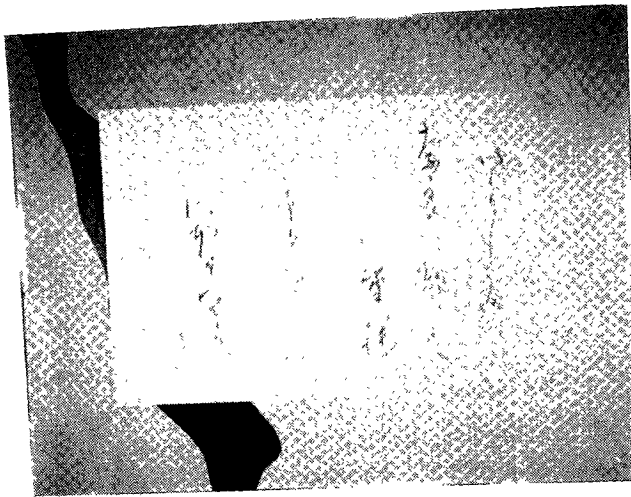
昭和五十八年度卒 中村 青澗 (純一郎)

平成一十年度卒 過能 乱馬 (友和)
 幸甚幸甚
 幸甚幸甚
 幸甚幸甚
 幸甚幸甚
 幸甚幸甚
 幸甚幸甚

平成一十年度卒 過能 乱馬 (友和)



平成七年度卒 牧本 朋子



昭和五十六年度卒 小柳 英子

大 貴 莫 過 學 道 至 樂 無 如 讀 書

昭和五十八年度卒 満生 憲親

昭和三十四年度卒 徳久 朔雲 (政機)

常道 漢 夢 無 覺 如 夢 之 上 檢 視 時 我 於 戶 何 有 夢 覺 時
 得 任 事 之 鮮 東 山 漢 之 實 品 乃 持 之 名 不 堪 非 此 道 道 能
 成 不 世 湖 中 有 家 不 解 不 春 必 食 年 生 志 願 志 願 志 願

特別寄稿

雑感

書道部長 青木文夫

先日、授業中に宿題の作文をさせたところ、準備を怠った学生があまりにも多いのに腹を立て、少しばかりお小言を言う羽目になった。

その中で、家で机に向かったことがあるのか、という単純な疑問を学生に投げかけたところ、反応が変なのである。この先生何を言ってるの、とか、うつむいて知らん顔、とか、どうも勉強（というほどのことでもないが）してないようなのである。勿論、真面目に勉強に取り組んでいるものもいるが、机に向かわないものが増えていと思うざる得ない感じでした。

かなり前の新入生観迎会の際、例え話しとして、私個人の体験（大學生のときの囲碁研究会）から、吐き気がするほど考えることの楽しさとそれによっていかに思考力が向上するかを説いたことがあるが、まさに、今の学生（福大生）に必要なのはこのことなのかなとあらためて認識している。授業で私が要求したことは、普通にやっている学生にとつて、2時間真剣に机に向かつて資料や辞書を調べれば分かることであり、また、そのくらいの事が出来ないようでは、社会に出てどうするんだらう、と思ってしまうようなことである。

書道部の諸君にも耳が痛いものがあるかもしれないが、学業はともかく、少なくとも、作品を仕上げる時の姿勢として真剣味（心技体の調和と集中力）において何かを得ていますか。と問い掛けてお

きます。筆を下ろす緊張感で吐き気をする事があるほどのことがあれば、そんな幸せなことではないのです。その次には、違う自分が筆を持つて入るのに気づくはずです。そんなふうにならずと書道に取り組んで、社会に出て行く君達は、いろいろな可能性が待っているはずです。



書の鑑賞について

講師 大原蒼龍

昨年の荒鷲では、制作する側から鑑賞というものの一部を述べてみました。さて、今回は鑑賞する側として論じてみたいと思います。

書に関心のない方や初心者の方から、よく「読めない」「解らない」という声を聞きます。これは、書のある種の既成概念にとらわれ、芸術品としてではなく、文学的出来事として判読しようとする行為から出て来る言葉だと思われます。確かに、書かれた文字や詩句の意味を解説することは、書を鑑賞する一訳ではありますが、本質ではありません。

では、書の鑑賞とは如何なるもので、どの様に伝えればよいのでしょうか。それにはまず「書と美術が同じとなるか」という事から考えねばなりません。

明治十五年岡倉天心と小山正太郎との間に「書は美術ならず」論争が起りました。これは、書を西洋美術の観点から考えたからと思われます。東洋美術では古くより「書画同源」（張玄遠「歴代名画記」）が主張され、その思想が存在し続けていたのです。つまり、書は絵画と同じ性質を持っており、鑑賞をも同じくする事が出来

ます。更に、書は音楽性や建築的構造美等といった多様な芸術性も持ち合わせているのです。

本来行うべき芸術鑑賞とは、“自分の一切の既成概念や理屈を排し、ただ純粹に対象となる美に向かい会い、感じ取る事”これを「直感的鑑賞」といいます。それぞれの作品には、何かしらの主義・主張や哲学・思想といったものがあり、それらが作品の醸し出すエネルギーや味わい・薰りといったものになります。つまり、書作品は鑑賞者に何かしらの感興を与える事が出来るのです。もし、何も感じる事が出来なかつたとすれば、それは自分にとって感興を起こさせてくれる作品ではなかつたか、もしくは、自分自身がその芸術性を感じ取る能力がまだ無かつたという事にすぎません。しかし、より多くの実物の書を鑑賞し続ければ、作品は様々な事を語りかけてくれるに違いありません。「読めない」「解らない」と最初から拒絶せず、様々な表情を見せる海や山・花や蝶などを観るように、気楽に書を楽しまればよいと思うのです。

また、他に分析的鑑賞・体験的鑑賞といったものがありますが、紙面の都合上、ここでは割愛させて頂きます。

書心会の危機

書心会 会長 柴田一夫

今年が書道部が昭和三十六年に同好会として発足して四十年の節目となります。この間書心会の同志は勿論の事、歴代の部長先生、現役の部員の諸君、講師の赤木先生、大原先生、西日本地域の書道家の諸先生方等数多くの方々のご協力のもと、他に類を見ない輝かしい業績を残し得た事は、自他ともに認めるどころです。

しかしこの四十年間書心会員として登録されたのは、三百名を越えるほどになりましたが、残念ながら書心会にご協力（物心）願っているのは固定された三十名前後の方々のみです。三十名前後の協力者の浄財だけでは書道部への援助（合宿、書道展、卒業記念品代等々）及び書心会員への通信費にも限界があり、今後の活動が出来なくなりつつあります。

一月の定例の総会に於いて、このままでは書心会の継続は難しく、三月に臨時総会を開催し会員の総意をまとめる事に決しました。

この現状を今年三月に会員の皆様全員に訴える手紙を差し上げましたが、当日の臨時総会に出席していただい

たのは、役員七名、会員四名、ファックスや手紙でご意見をいただいたのが八名という散々たる総会であり、会員の皆様方の無関心さ、無責任さの現実を痛いほど知らされました。

しかしながら一週間後に開催された追出しコンパには三十数名のOB、OGが大挙して出席しています。何も追出しコンパに出席するのが悪い事でなく、出席した方々は、自分達は「書心会員」であるという自覚のケラも無いものかと感じ非常に空しく、悲しく思いました。

このまま会員の皆様のご協力が無ければ、書心会の主旨である書道部の活動を援助して行く事は出来ません。

会員の総意を汲む事が出来なかった事態を招いた事は全て会長である私の責任であり、私はいま自分自身への自責の念でいっぱいであり、責任を取らせていただきたくお願いいたします。

現在お読みの、この「荒鷲」の制作費の捻出がいかに大変か、OB、OGの方々には痛い程分かるはずですが。この痛みを少しでも癒そうと言う気持ちの欠片も湧いて来なくて、この「荒鷲」をどのような気持ちで読んでいいのかおたずねしたい。

卒業して書道を続け、個展やアートイベントを主催している私ですが、書道作品の展覧会って本当はあまり好きではありません。何故って、すこしく退屈だから。

世の中これだけ情報が豊富で、芸術や音楽の世界は日々躍進をと遂げているっていうのに、何でまた「書」だけがとまっているのでしょうか。

お馴染みの漢詩や仮名、せいぜい近代詩文。でもどれもこれも読めない字ばかりだし、書道やってる人しか分かんないような表現ばかりで、皆似たような作品ばかりだし……。

某新聞社主催の書展なんか特にそうです。見てる客のご老人ばかりです。

別に私は前衛が必ずしも良いものとは思わなし、古典をベースにすることと基本的にな練習は勿論、大事だとは思いますが。永遠に人と同じことやって楽しいかなーと。

皆、書が古典芸術だと思いきる。たかが字なのに。もっと自分の好きなようにしていい。楽しんでいい。自由であって良いたと思うんです。どうして今の書道は線や形にとらわれて、「言葉」を忘れてしまったのでしょうか。もっと生きたみずみずしい言葉をつかって作品を書いていいのに。なんか花鳥風月みたい

なのを書けばかっこいいと思ってるんじゃないか。そのセンスは相当古いです。今時、漢詩の世界に住んでいる人なんかいません。和歌詠んでいる人なんかそうそうみつきりません。そんなんで、自己表現なんて相当難しいと思います。

全くの私見として言わせてもらえれば書道が古典を学びながら人それぞれのスタイルを磨ける場になれば楽しく遊べる世界なら、もっとたくさんの人にひろがるし、芸術としても進歩するのではないかと思うのです。ルネッサンスを興さなければ、必ずや書は衰退の一途を辿るでしょう。

書の世界が「師弟関係」の狭いマインドコントロールから解放されて純粹に楽しめる身近な芸術になることを願いつつ、書の未来を信じてこれからも書き続けていきたいと思っています。

「大学生に求められるもの」

学術文化部会 常任幹事会幹事長 小川賢樹

「集団の中で自己を見出すこと」これこそ現代の大学生に欠けている部分であり、これから求められるものではないだろうか。

現在の日本は明らかに組織社会である。教育現状において、協調性を乱す個性はつぶされ、集団の規律を守れる者は評価される。そのような環境の下で育ち、机にかじりついて義務的な受験勉強をしたあげく、ただなんとなく大学に入学する。現在の大学生全てがこのようであるとは言わないが、正課の授業をサポート、アルバイトに明け暮れる大学生達を見ると、本当に大切なものを見失っているような気がする。

これから先行き不透明な社会に飛び出す我々大学生にとって様々な可能性を秘めるこのキャンパス内で、目の利益より大切な何かを探求し、今しかできないことを経験すべきであると私は考える。いろんな人との出会い、それは自分を一回りも二回りも成長させる。お互いを指摘し合い、理解することで自己を客観的に見つめ直すことができる。しかし個性を忘れてはならない。組織社会の中で自分の個性を発揮し、多様な個性をもった人

間と触れ合うことで自己の存在意義を見出すことができると思う。

各個人が様々な事情の中で学生生活を送っていると思うが、自分の置かれている立場に悲観的になるのではなく、何事も前向きに挑戦して欲しい。そこには本当に必要な何かが存在するはずである。

福大書道部への思い

福岡学生書道連盟 運営委員長 九州大学 車田 隆亮

福大書道部員の方々に会って様々な事を考えさせられました。私が一年生、二年生の時は、自由気ままな行動ばかりしていたため、諸先輩方の逆鱗に触れることも多々あり、厳しい人達だなーと、思っていました。しかし、3年生にもなり後輩の事にも気をくばりだし、四年生で福岡学生書道連盟の責任者として人と接していくにつれて、福大の方々の厳しさは、相手を真剣に思いやる気持ちからきているものだと思えました。ほとんどの場合、自分と価値観の違う人とは伴に行動しようと思わず、自分の殻に閉じこもりがちで現代人に対し、ある基盤となる尺度の下、礼儀という形で上手に上下関係を築き上げ組織化し、様々な行動を実行できる福大書道部には敬服の念を感じます。

その基盤になるのが、「他人への思いやり」です。私は人として成長していく過程で自分の糧となるのは、他人が自分に対して発してくれる喜怒哀楽の生の声を第一に考えます。だから、福大書道部の方の思いやりから出てくる言葉は、私にとって大変心にしみました。このような体験を後輩にも体験してほしいと思っておりますので、御大学のますますの御発展を願い、末筆とさせていただきます。



部員寄稿

「結婚」

結婚について

二回生 太田 真文

結婚！？、この年で結婚なんて考えたこともない二十才の男。昔、よく幼稚園も頃同じクラスのトモミちゃんから「結婚しよう！」とか言われていたと母がよく言っていたのを思い出した。当時は何言ってるのこいつ、程度しか思わなかった。っていうか二人で一緒に生活するだけの事でしょ、そんなのつまらないとか思えなかった。そんな事しか考えていない悪ガキでした。

最近、正月にいとこの姉さん夫婦が久しぶりに鹿児島に帰ってきた。するとなんと手には小さな小さな赤ちゃんが抱えられていた。オオ！なんとも可愛らしい。しかもなんてこんなに小さな手をしているんだ、と少しばかりに感動してしまった。とにかく可愛いの一言であった。その名も「涼子」。実家の主役は久しぶりに帰ってくる自分よりも初めて来る「涼子」に注目をとられてしまった。しかもよりによって我が母、姉までもギャーギャーと騒ぐしまつ。もうみんな一声に「可愛い、可愛い、可愛い」のオンパレード。姉も「早く子どもを産むぞ」と気合充分。こいつはバカか！？、その前に相手を探せよと思う弟であった。「涼子」が何かをするたびに周り大人達はひたすら騒いでいた日し

た。ま、とにかく可愛いがられるのは良いことにしよう。

そんないとこの姉さんが僕に「マーホは結婚して子どもが欲しい」かと言ってきた。そんな事言われてもそんな年じゃないから分らないと言いつ返した。実際、旦那さんとの結婚生活はどう？、と聞くと「まあまあかな」という。じゃ、なんで結婚したの？と尋ねると、「やっぱり価値観や趣味、気があったからかな」と言った。その時はたいして考えもしなかったがあとからなんか心の片隅にいとこの姉さんの言葉が残っていた。その夜、寝る時にふと考えた。やっぱりお互いの価値観とかが合わないとうまくやっていけないのかな？と思った。たしかにお互い好きでもほんのささいな事で喧嘩ばかりしては嫌な関係になるだけだし、気持ちが離れていくばかりじゃー長続きはしないと思えてきた。そしたらその前にそんな価値観の合わない人は最初からえらばなかったらしいじゃないかと思うが、そんなに簡単にいく世の中ではない。それがあるからこそ生きることには価値があると思う。理想の人にめぐり逢えるのはいつの日なのでしょう。だけれどかえって理想すぎてあまりにもパーフェクトすぎたら恐いかもれない。だから僕は価値観はあうが、少し変わった人と結婚したい。あと、絶対に思いやりがないといけない。ダメ。以上をもとに徐々に結婚相手を探そうかなーと思う。今日この頃は。っていうかまだそんな年頃ではないんで適当に大学生活を楽しみたいです。

結婚について

一回生 神山まい

以前、友人と一緒に話をしていた時のことである。はつきり覚えていないが、「結婚しているが、他に好きな人ができたら、結婚相手と別れて、その人と一緒になるか、それとも、一度結婚したら、たとえ好きな人が出来ても、その人への想いは隠し通すか」といったような内容のことを尋ねられた。つまり、結婚、あるいは離婚をどうとらえるかという問題である。

最初、私は深く考えもせず、あっさり前者を選んだ。「好きな人との結婚」が一番の幸せのように思えたからである。友人二人は前者と後者、それぞれに意見が分かれた。後者を主張する友人は、結婚に責任を持つべきだというのである。責任という言葉は適当でないかもしれないが、最近結婚、離婚を軽く考える傾向があるという。それに対して、前者を主張する友人は、社会的価値が基準ではないというのだ。一般に、好ましくないと思われている離婚という価値を、そのまま自分の価値として認める必要はないというのである。

確かに、近年は離婚者の数が著しく増えているという。理由はいくつもあると思うが、離婚しやすい環境、状況が整ってきたと思われる。結婚による家と家とのつながりが現在よりもはるかに重視されていた頃、離婚の成立は難しいものだったに違いない。今はテレビ等の影響も手伝って、以前ほど抵抗がなくなっただけと思わ

れる。また、女性の地位向上や社会進出の大きな要因となっているのだろう。昔とは時代が変わったといえればそれまでだが、全てをそのように肩付けることに私は賛成できない。白黒では決して割り切ることの出来る問題ではなく、答えは人それぞれだろう。社会的価値が個人の価値基準ではない、私は友人の意見に賛成も反対もしない。なぜなら、現実と理想は一致しない。いざそのような状況になった時、嫌なもの嫌なものわがままなものが人間ではないだろうか。結婚のとらえ方が変化しつつある時期だからこそ、自分の結婚観というものを考えてみる良い機会としたいものである。

結婚について

山手麻美

其の一 時期

私にとつて、これはあまり重要なことではないです。一八歳だろうが三〇歳だろうが、自分自身がこれからちゃんと自立して家庭を築いていけるといふ自信が持てるようになったら、しようとおもいます。但しタイミングよくそんな相手がいたらの話ですが。タイミング、これが大事

其の二相手

これ、一番大事。一生を共にする人ですから。理想のタイプは特にならないのですが、ここぞという時（自分が精神的につぶれてしまいそうな時とか？）と一緒にいてほしいな、と思う人。あ、あと、価値観が同じで尊敬できる人。これだけは譲れません。：理想がないといいつつ、けっこううるさいかもしれませんね（笑）。しかしながら、理想を掲げるだけでなく、そんな人に愛される自分というのも磨かなくてはなりません。

其の三子ども

3人欲しいです。子供は多い方がよいとおもわれます。私の子供好きというのがありますが。細かい構成について①男1人、女2人（双子）②男2人（双子）女1人は非、双子が欲しいです。ちなみに一卵性双生児で。

其の四家

まずアパート暮らしでしょう。社宅でも、公団住宅でもOKです。最初は二人からのスタートですので立派な一軒家は要りません。団地妻を経験したいですね。「奥さん、お醤油かしちゃらんね？」とか、「お煮しめ、おそろわけよ」とか、そういう御近所付き合いもよろしい。子供が中学生くらいになったら、素敵（出来れば和風建築）な家を持ちたいです。

其の五皇后に

皇后に、愛と恋の違いについて。二つの文字：心：の位置で、真心と下心の違いだなんて言う人がいますが。うまく言えないけど、自分本位か相手本意かの違いではないか、と私は思います。恋をしている時、「あの人に好かれたいわ、どうしたら気に入ってもらえるかしら。優しく接したりしよう！」なんて思いますよね。これは、一見相手のことを思いやっているようですが、結局は自分に戻ってくるのを期待しているんですね。これが愛になりますと、無償とでも言いましょうか、そこに何も求めない、という。あくまで持論ですが、みなさんどう思われますか。ちなみに私は、まだ恋の段階です。

「経済について」

ミレニアムに向かって 四回生 大場 智子

一九九九年は激動の一年間でした。大手銀行の相次ぐ合併、山一証券の倒産、自動車産業の生き残りをかけた資本提携、その他の会社でも大量のリストラ等暗いニュースばかりだった。さらに、JRのトンネル崩落事故、国民があきれかえった神奈川県警のスキヤンダル。小倉

駅でも起きた通り魔事件に、極めつけは、東海村の臨海事故と、次はいったい日本の何がくずれるのだろうか。

臨界事故直前に決まった小渕第二次内閣。任命式後に小渕さんが自慢気に発表したのは、来年四月に発行する二千円札の発表だった。国民の喝采を予想して発表したつもりだったかもしれないが、拍手もまばらで、経済波及効果も今一つとの予想をしている評論家が多い。

二〇〇〇年のミレニアムだから二千円ということと、

七月には九州・沖縄サミットがあり、表の図柄に守礼の門をあしらうなどのアイデアは面白いだろうが、沖縄県民には基地問題との絡みで素直に受け止めにくい空気もあるようだ。基地問題も二〇〇〇年に持ち越す事は残念だ。紙幣に肖像画が無いのは珍しいが、実は小渕、小沢神崎氏が透かし印刷されている：と言う事はないだろうが、今の政党は顔が見えないと言われている。自民、自由、公明三党は互いの顔色ばかりうかがって、同じ顔が三つそろった感じだが、それよりも国民の顔色をもっとうかがって欲しい。

国民の顔色が今年少しでもよくなった時があったかなと思うと、思いつかないが、ここ福岡に限っては、福岡ダイエーのリーグ優勝で、天神を中心に優勝セールで特に女性の顔色は明るくなり、天神、博多も活気づいた。壽屋、玉屋の閉店、岩田屋本館のビル売却、博多リバレ

インの大赤字など、福岡はこのまま暗くなっていくのかと心配された中でこのダイエー優勝は、福岡に元気と明るさとバーゲンを与えてくれた。(これに付け加えて、アビスパがもっと頑張ってくれたら言う事無いが)

優勝セールの時、私は体調を崩してバーゲンに行けず、くやしい思いをした。バーゲンの様子はTVで見たが、女性の買い物好きは同じ女性ながら「すさまじい」と思った。

この不景気にもかかわらず二十代後半から三十代の独身女性の購買力は減少していないという。また、マンションや一戸建てを購入する女性が増えている。自分の将来や仕事、結婚にもシビアな女性が増えたと男性はよく口にするが、今までそれが隠れていただけで、本来女性とは力強いもので、それが表に出ただけである。私も来年の四月からは社会人女性となり、日本経済を支える力(まだマッチ棒程度の)となるが、二〇〇〇年のフレッシュウーマンとして、明るく頑張りたい。



美意識が不況を救う

二回生 松下 健太郎

今、この日本は新聞やTVで不景気×2と言われている。ではこの世でいう不景気とはいかなるものなのであるだろうか。

不景気だと言われているけれども、国民の預金高は千兆から千三百兆円存在する。かつてのアメリカのように国民の預金高がなくて不景気だったら、それは本当に不景気である。しかし、皆の預金高はあるのだから、それが動かないだけの話である。

では、なぜ動かないのだろうか。それは、税金の為とか、用心の為とか、それもあると思う。しかし、それだけではなくて、「買いたいものがない」ということが根本的な原因としてあると思う。

なぜなら、電気製品が売れないと言っているけれども、幸か不幸か日本の電気製品は丈夫にできているのである。従って、普通に使っていけば十年、二十年はもつである。その上、レンジなんかは一家に一台あれば、三台も四台も必要ないし、電気冷蔵庫も、あんな大きいものは一つあれば十分（僕の実家には二台あったような気もするが）である。それなのに、その上買え買えというのはおかしい話である。

いつかテレビでやっていたけれども、何人かの人が思

ったように掃除機とか電気ポットをデザインしていた。掃除機はキュートなカメさんになっており、ポットはペンギンになっていた。ペンギンさんの口からお湯が出るのである。そしてらみんな、「かわいい」とか「ほしい」と大騒ぎしていた。

ところが、企業の方はそういうものはつくってはいないのだ。ただ使えればいいみたいに、申しわけ程度に花柄とかチェックの入ったようなものしかつくらないのである。そして大きな字で、「出る」とか「止める」とか書いてあるだけである。そんなものは、今の若者は求めていないのだ。また、最近の若者の中には、六畳一間を驚くべきインテリアで飾っている人がたくさんいるように（*ワンダフル部屋査定計画より）夢のある、遊びのある楽しいものが欲しいのである。これからはそういう時代である。

メーカーもそういった消費者のニーズに目をつけることが鍵だと思われる。美しいものが世の中の景気をよくするのである。物が動き、お金も動くであろう。

また、世の中を美しいもので彩ることはとても重大な事である。「環境が人をつくる」というように、風雅で上品な建物が並んでいる町並みでは、犯罪を起こしようにも、似合わないから起きなくなるといふ。逆に言えば、

犯罪を犯してもいいような風景だから起きるといふことである。

このような考え方からすると、住む家のインテリアを考えることも価値があるといえるだろう。インテリアなんてぜいたくなもので、健康とか生きていく上にはまったく関係ないものだ、と切り離して考えるのではなく、身のまわりに置いて使うもの、茶碗でも机でも、家の中のどの品物でも値段の高い安いに関係なく、気に入った明るく美しいものを基準にすることが大切だと思う。性能はどこのものも大差ないのである。だから、性能で選ばないで、デザインとか美しさで選ぶようにすればいいのである。そうすると、心がなごむだろう。

先に述べたような感覚、すなわち美意識こそが、不況を救い、人も救い、地球を救うのではなからうか。

「こだわり」

私のこだわり

一回生 藤本 寛子

他人から見ると人のこだわりはつまらないものが多いでしょう。私のこだわりもかなりくだらないですが、このお題をもらってしまったので二つ程紹介しようと思います。

まず一つ目のこだわりは「ボン酢」です。みなさんは馬路村の「ゆずボン酢」を御存知でしょうか。三年前に知り合いの紹介で我が家に来た「ゆずボン酢」は絶大なる支持を受け、今では冷蔵庫になくってはならないものと成りました。近年そのおいしきでファンを増やし経済力を手にした馬路村は、ローカル色の強い、思わず青くなる程のCMを流しています。が、いくらCMが変でも味は最高です。まだ使ったことのない人は一度使ってみて下さい。

次のこだわりは、寝込みの音楽と目覚めの音楽です。私にとって睡眠はかなり重要なのでこの二つも必然的に重要となってきました。寝込みの音楽ですが、松任谷由実、Back Street Boysなんかをよく聞きます。が、なんといつてもENYAが一番です。何とも言えないあのサウンドが自然な眠りを誘ってくれます。目覚めの音楽にも最適ですが、聞いていてあまりにも気持ちがいいので二度寝をしてしまう確率が非常に高いです。休日などの起床時間を厳守しなくて良い日にした方がいいでしょう。目覚めの音楽は、その日にやることや気分によって変わってきます。ゆつくりと気持ち良く起きたいなら、前に挙げたENYAや井上陽水なんかもいいですが、陽水の場合、信じられない程重たい歌詞の曲がたまにあり、いつきに目が覚めてしまったりもします。戦闘的な気分で朝から元気に起きたい時はBzやゆずなんかを聞きます。変り種としては

吉田拓郎なんかもいいです。もの凄くミヨーな気分で見ても覚ますことができます。まあ、これはやってみないと分からないと思うので一度やってみて下さい。でも、間違っても寝込みには使わないで下さい。歌詞がある意味すごいのでずっと聞いてしまい、眠れなくなってしまうことがあります。そんな吉田拓郎にも負けない程いい睡眠音楽を知っている方、ぜひお知らせ下さい。

最後に書道についてですが、右も左も分からない書道の世界なので、当然のごとくまだこだわりを持ってません。これから書道が続けていく上で、良い意味でのこだわりを持つようになるればと思っています。 おわり

私のこだわり 古堅 瞳子

うーん、映画ですかね。私のこだわりというのは、前はそうでもなかったのに、高校の時から急に☆映画大好き人間☆に変身してしまいました。俳優の事もかなり詳しくになり、一つの作品を見たら誰がどれに出演してたかだいたいわかります。見たいのはたくさんあるけど、何かしら忙しくて行けません。実家では、一緒に見る人がいなくても一人で映画館に行ったりもします。かるーく寂しいですけど。今は、もし恋人ができたらデートには必ず映画を見る計画を練っています。見なけりやデートじゃないと思うかもしれませんが。いや思っています。で、

見てる時に彼が私の手をにぎって：(キヤーツ)って想像力は豊かなんですよねいつも。はい、マンガの読みすぎです。でも本当なら、一緒にいるだけでいいんでしょうね。

かなり話がずれてしまいましたが、私は座る席にもこだわります。中央座席の真ん中らへんです。で、上映中に物を食べない。二つのことを同時進行できなくて、必ず食べ物に集中するんです。まあ太田さんが私によく言う「色気より食い気」まさにそれです。くやしけどあたってます。

見たら恋愛以外のものですね。見てる間はいいけど、外に出たら「私にも何か奇跡起こらないかなあ」と妙にきたいしてしまつて後からが寂びしいんです。だから恋愛物はビデオが一番。巨大スクリーンで見るとやっぱりアクション系です。今まで見た中で強烈だったのがアルマゲドン。終始ハラハラ、ドキドキの連続で、涙が止まりませんでした。見終わったあとは、久しぶりに大量の涙を流したぜ、という感じでした。

とにかく映画を見ることによって、自分が主人公の気分を味わえ、単純だけど幸せな気分になれるんです。

もう一つこだわりがあります。それは、*お祈り*です。何かあるたび、必ず寝る前にペランダでしています。

例えば、「明日、晴れますようにアーメン」とか「数学

の演習あたりませんようにアーメン」、「〇〇君とおしゃべりできますようにアーメン」って最後にアーメンと言わないと願いがかなわないような気がして。いつからお祈りが習慣化したのかわかりません。気がついたらやってきました。他の人から見たら何やってんだ？と思うでしょうが、私の祈りは一生続きます。

長々と述べましたが、これが私のこだわりです。

私のこだわり

二回生 川原敦志

私が今こだわっているのは、服だ。最近、服を買いに行った時も、目的の服を買おうとしてもやめてしまう事が多くなった。それは初めのうちは、目的の物はすぐ手に取ってほかの物を見て回っているのだが、途中で手に取った物が『なんかこれは自分には似合わないような気がして来た。』などと、少々バカげた事を考えたりして不安気になってしまうからだ。普通の人は、あまりこういう事は考えないだろう。

それでは、なぜ私が服にこだわり始めたのか。その理由は、私が大学一年の時の夏やったと思うが、家で、兄から一言言われた。それは、



『お前が着てる服、なんかイモやなく。今時そういうのを着とる奴おらんぞ。』

この言葉が、服にこだわりをもち始めた理由なのである。あの時、そう言われた時はさすがにショックをうけた。なぜなら、その時まで着ていた服は、自分にとってとても気に入っていた服だったから。そう言われたおかげで、今ではその服は洋服ダンスの奥の方に封印してしまつた。だから、言われた日の次の日から一度も着ていない。もうその服は、かわいそうだが二度と着る事はないだろう。

あと、上着とズボンの色に対しても気にし始めている。自分が好きな色は、白、黒、青の三色である。他の色も嫌いというわけではないのだが、黄色と緑は自分には絶対似合わないと確信している。それと今、一時期はやってきたボーダーのシャツを特に一番気に入っている。だから、いろんな色のボーダーシャツに合ったズボンや、おまけに靴まで買ったたりしている。いつだったか忘れたが、一日のうちにシャツ、ズボン、靴と一通り買いそろえた事があった。それも一つずつではなくて、二つ買ったり、三つ買ったりとか、とにかく多めに買ってしまふ事がよくある。でも、今では、その時そろえたのをとて

も気に入っており、よく着るようになった。

しかし、まだまだ本当にこだわりを持っている人から見ると、イモっぽい格好だと思つたろう。しかし、今でも思っている事は、とにかく質と色、そして流行に合ったような服を選び、そしてイモっぽく他人に見られないようにしていきたいということである。この事は、これからはずっと忘れずに思い続ける事だろう。

私の映画へのこだわり

二年 亀山 知美

私は映画が好きです。オタクとまではいかないけど、まあ好きな映画をちよこちよこつと観る程度です。基本的に邦画は観ません。あんまり面白くないからです。やっぱり映画は洋画です。米映画はもちろん、仏映画や独映画も好きです。ここ最近の独映画と韓国映画の発展は目覚ましいです。高校の時は香港映画もけっこう観てました。仏映画は芸術って感じが好きです。なんか「愛」について深く考えさせられます。私は「過激な悲劇」っていうのが好きなんです。



が、そんな価値がこの映画にあるのかなあ：？と不思議に思いました。（※ファンの人すみません：）大体私は、○イカプリオ自体好きではないので。（※ファンの人すみません：）やっぱり俳優も、1クセも2クセもある人が好きです。ルックスはイマイチでも、面白い演技をする人が好きです。

あと私は、非現実的な話より、現実的な話の方が好きです。現実的な話の方がより自分の気持ちを入れ込むことができるからです。あくまで私がですけど：。

でもまあ、映画というものは本当に心を豊かにしてくれると思います。映画を観ている間、自分も一緒になって、喜んだり哀しんだりするのって、とても面白い時間だと思えます、私。

「夢」

夢について

梶木 和孝

私は、大作よりも小作品を好みます。大作だったら、やっぱり特撮とかにどうしても目がいくと思うけど、小作品だと、登場人物の性格や会話が重要になってくると思うから、そのへんの人間の描き方なんかを観るのが面白いです。私は大ヒットした「○イタニック」を最近やっとな観たんですけど（父が友達から借りてこなかったら一生観てないかも：）、私の中ではやっぱり不発でした。高校の友達がみんな四回も五回も観にいらっていたのです

忘れもしない十月二十八日木曜日午後九時四十分のことだ、ペトラザの投げた球がリ・ジョンボムのバットを空にきって城島のミットにボールがおさまった瞬間、ダイエーの優勝がきまった。そして、電話も優勝が決まった瞬間に鳴り始めた。

僕は幼稚園の頃から、熱狂的な中日ファンである。今年ドラゴンズは、十一年ぶりに優勝をした。十一年前は西武ライオンズに4勝1敗で完敗だったので私は今年こそは日本一にと気合をいれていた。だが、書道部の部員の連中ときたら、たいして、ダイエーファンではないくせにやたらとダイエーを応援するドラゴンズ、ファン歴十五年の僕にとってはいい気分ではなかった。そんな、四面楚歌のなか、ある部員、ここでは誰にもわからないようにk原君（恋愛短歌委員会会長）が僕にこう言ってきた「俺も中日ファンなんだよ」と言ってきたので本当ファンなのか私はk原に中日ファンにしかわからないドラゴンズ・クイズをだした。そしたら見事に正解だったので私の仲間に加えてやった。そして、k原君は部員の前である約束をした、それはもし中日が負けたら髪型を坊主にするということだった。この時、私はk原君を尊敬した。だが、その尊敬が憎悪に変わるのは時間が、かからなかった。日本シリーズが始まりダイエーが僕の予想をくつがいで、シリーズを制した。

ダイエーの優勝が決まった瞬間鳴り出した電話をとった、その電話の主は書道部部員の人達でした。電話の内容はほとんど嫌がらせにちかかった。1人1人電話を代わり僕に一言ずつ素晴らしいコメントを残し電話はきら

れた。この時電話をかけてきた人達は誰とは言わないが（O場さん、Y根さん、S田さん、I橋さん、F本、T川、K山、O田、F堅、M尾）あなたたちのことは忘れせん。僕と同じようにk原も苦しんでいるだろうと僕は思っていたがk原はそんな様子もなく次の日部員に「坊主にするんだよね？」と言われたら彼は「そんな約束はしていない」といいだした、見事に私は、裏切られた。でも、私は来年も中日を応援しようと思う。来年こそ日本一になってくれるだろう。これが私の夢である。

モグの夢

四年 山根芳子

● ジュピロ

私の号（磐静く静岡県磐田市リジュピロ！）を見てもらえばわかるように、私は福岡人でありながらジュピロ磐田の熱烈なファンなのである。それはもう、ジュピロがJリーグに上がったところからの。アビスパはJリーグに上がる前のJFL時代は、結構応援していた。福岡に招致活動をしていた頃はまったく興味なかった。福岡に招致活動をしていた頃はまったく興味なかった。福岡に招致活動をしていなかったが、福岡に来てからは練習を見に行ったりした。上がってしまったら、適度に

応援をする程度。でも、たまに勝つと嬉しい。ジュピロは、ユニホームの色と選手が気に入ったからJに上がって以来ファンだ。私の野生の勘は鋭く、ジュピロはJで優勝するまでのチームになった。本当に、素晴らしい。一度でいいからサックスブルーに染まったスタジアムでジュピロの試合を観てみたい！ちなみに鳥栖スタジアムであったホームゲームを観に行ったとき、ジュピロ君（チームマスコット）のあまりのかわいさに、感激して手を振ってしまった…。

● 春

一年の時、荒鷲で

♪はくやくくこくこいモグのはるる♪

と、のんきに歌っていた私だが、四年間春っぽいことは何もなかった（泣）。歌っていた当時は、「四年もあれば一回くらい春は来るだろう、とかなり甘いことを考えていた。ホントに甘かった…。このごろ結婚されたM原先輩に、春がきたら速達で報告します！と約束しているのに。約束が果たせるのはいつの日か。

春をゲット！これが、ジュピロに次いで二つ目の夢だ。四年になつてまで、こんな事を言っている私って…。

私に限らず、私のまわりの四年はみんなそれが夢に違いない。O場さんも、O原さんもどうして春が来ないかなあ？I橋さんは、変わった人だからな。S田さんはアドバイザー。みんな、春がきたら私に速達で報告

するように！私は、みんなから速達が来ることも夢みている。将来的には、みんなで彼氏連れてバス旅行でもするか。（あー、想像しただけでも濃いそう…。）

大きな夢を持つ女

モグでした。

夢について

岡田 貴子

今まで色々と自分の将来について夢をみましたが、その中のいくつかを書こうと思います。

まず、今考えておかしいんですが、中学三年の頃に何故か、京都の舞妓娘さんになりたくて仕方ありませんでした。理由はおそらく京都の歴史のある町なみが好きですし、着物も奇麗で京舞も美しいという単純な事だったと思います。しかし、何故か本当になりたくて高校に落ちたら京都に行くことと真剣に考え、高校生試前落ちたくないけど心のどこかでは落ちればいいなと思っており、今となつては訳の解らない心理状況にいました。しかし、今となつては、たぶん京都にいく勇氣もなかったと思いますが、まかり間違つて舞妓娘になる道など歩んでなくて良かったと思います。やはり十代の間は学生がいいとつくづく思います。

次に高校入試直後、将来なりたい職業について調べるといふ事あり、その頃何も考えておらず、某プロ野球選手のファンだった私は、就きたい職業の調査の時、あっさりスチュワードessと書いてだしてしまいました。実際その職業について調べる日になつてみると周囲の人は、学者や日本語教諭、教師などみんな自分が真剣になりたいと考えている職業だったので、私はかなり恥ずかしかつたです。そんなこともありつつ、私の現在の夢は学芸員なのですが、結局これに決定した理由も浅はかでした。学芸員とは博物館などで展示資料の収集や保管、調査研究に従事する仕事です。だから私は学芸員になつて資料館に勤めよう、自分の興味のある事を仕事にするのはなんと理想的なんだと勝手に舞い上がつて決定してしまい、そのまま大学に入学しました。その後、学芸員になるくとはかなり難しい事を知り、また考えが甘かつた事を思いしらされています。しかし、現実至今已、その夢に向かつて一步一步踏み出しています。ですから、自分で無理だと決め付けてこの夢を諦めるつもりはありません。

最後に、こんな私の文章まで読んで下さつた方がいましたらどうも有り難うございます。



「福大書道部に入部して」



書道部に入部して

人文学部 日本語日本文学科 四年 荻原裕子

長い人生の中、大学の四年間なんて本当に短いものだとしみじみ感じる。

そもそも、私が書道部に入部した動機は、教職の授業で「書道」があったから（実際は、書道部の活動とは全く異なる授業だった）。また、新生入生に見てもらえなかった私は、勧誘週間に部活に入るきっかけが作れず、しばらくは、学校に行って、帰るだけのむなしい生活を送っていた。そんな中、一足先に書道部に入部していた予備校仲間のS田さんの楽しそうな姿につられた、というのが大きな要因だった。

部活動に入るより、バイトでお金を稼いで遊んでいた方がいい、という学生がこの数年間で急増した。私は書道部に入るまでの二週間、何をするでもなく過ごしていたが、バイトに明け暮れ、お金を稼ぎたいとは思わなかった。何故なら、そんな学生生活なんてつまらないからだ。お金を稼ぐことなら社会人になってもできる。私は、

学生の間しかできないことをやりたかった。そして私は書道部でお金なんかじゃ買えない多くの物事を得た。

まず、こんな私でも「先輩」と言って慕ってくれる（？）かわいい後輩を得た。『後輩からは感性を学べ』という句があるが、私は彼らから斬新な考えと、ひたむきな姿勢を学んだ。そして、部のことを今まで守り、築いていらした先輩を得た。『あの時、先輩が言ってあったことはこのことだったんだ』と、思い当たる節がいくつもあった。

私も先輩方のように、後輩に少しでも多くのことを残してあげたいと思う。そして、苦楽を共に過ごして来た同輩を得た。私の性格を十分に知り、励ましてくれたり、怒ってくれたりした彼女らに私は本当に感謝している。自分の全てを知ってくれている人と一緒にいることが、どんなに楽しく、ラクチン（・・・）なものか、後輩のみなさんにはぜひ実感してもらいたい。

学生は、社会人になるためのいわば準備期間である。

そこでの生活は、良くするも、悪くするも自分の責任となる。自分の納得いく目標を持ち、臨んで欲しい。

学生生活は二度と来ないのだから。



一年 玉川 美穂

これから専門分野を学んでいく上で、書道は切つても切り離せないものになっている。書道が続けていくことだけを考えれば、個人で先生につけば、いくらでも学べるかもしれない。実際、小中高時代そのようにして基本的なことは学んできたつもりでいる。しかし、学生生活の特権でもある部やサークルに所属し、書に関わっていくことに興味をもっていった期待どおり、いろんな先輩方や同輩にも恵まれ、さまざまな個性をもった部員の集まりである福大書道部は、人間関係を通して学ぶことは多い。日々の練習と遊びのメリハリのある活動は、今までに経験した事のない楽しく有意義のものである。互いに書技向上を意識し合いながらの練習、そして批評会などを通して他人の作品に接し鑑賞する事で、自分の書によい影響を与えている。また、部の人間関係を通して自分自身の成長という面で、同じ事が言えるそれは部での行事、親睦会や合宿などの存在が大きい。これらを経験して、自分自身得るものは大きく、やはり部に所属していいなとこのような貴重な体験は、なかなかできないのではないかと思う。また、行事に参加するたびに思うが、ひとりひとりの力を求められることから、個人の持っている力を発揮させられる場、発揮できる場であるということである。先輩方や同輩の言動を見て、自分自身まだまだ

など感じる事が多く、これから自分の持っている力をどこまで伸ばせるか挑戦していきたいと思う。

これからの経験は、楽しい事ばかりとは思ってないし、苦しい事も経験するだろう。しかし、楽しい事苦しい事、いろいろな経験を通して書に表現できるものがあるのではないだろうか。ただ、手本をまねた模倣だけでは得られないもの、たとえば線の力強さ、優しさ、弱さ、美しさなど個性という、その人だけが作り出す事のできる、まねできないものをみにつけることができるのではないだろうか。臨書の学習を通して、創作という自己の世界で作品を生み出す時に、それがいかさされてくると思う。これからの活動で得るものを、自分自身の心の豊かさにし、書技と精神が一体となった表現を身につけていきたい。

入部して半年が経つが、学生生活がとても充実したものになっていると感じている。一つのを大事にして、そのなかで一生懸命得ようとする事は素晴らしい事だと思う。

「世紀末」

世紀末

法学部 法律学科 四回生 石橋 幸恵

今年は一九九九年だ。来年から二十一世紀となる。

色々騒がれてるようだが、実質は今までと何も変わらないと思うのだが……。まあ、コンピュータの問題と

かはあるがね。私はそう思っている。確かに百年に一度の節目ではあるが、取り立てて騒ぐ必要性も無いだろう。

だからと言って、私が騒いでいる人々を蔑視しているかと言えば、決してそうではない。なんだかんだ言っても私もお祭り好きな性格ではあるので、今年の年末が楽しみではあるのだ。しかし、何か特別なことが起こるとは思わない。今年の大晦日も、来年の正月も去年と同じように過ぎていくに違いないのだ。

ノスうんたら（個人のプライバシー尊重の為、敢えて正確な表記は避ける）の予言で、今年人類は滅びるはずだった。世間は沸いた…本当に沸いたか？まあ、よう分からんが、この予言に躍らされた人がいるのは事実だろう。実際はと言えば…そんな人類が滅びるようなことは何も起こっちゃいない。（細かいことは除く。あんなことがあった…こんなことがあった…と世界中の災害または事件をあげつらうような揚げ足の取り方を私は嫌う。）

何が言いたいのか…。しよせん世紀末とは言えども、

何ら日常が変わる訳無いので、今まで通り平和に正しく過ごして行こう、ということが言いたかったのだ。

いるじゃないか。馬鹿な犯罪を犯す奴。世紀の変わり目というだけで、いたらんことをやられても、鬱陶しいことこの上ない。平和が一番。だから、取り立てて騒ぐ必要、まったく無し。 終わり

世紀末

二年生 三好 幸弘

アハッピー ニュウミレニアムって言うことでノストラダムの予言もはずれて2000年になりましたね。さてこれからどんなじだいになるんでしょうね？それではこんな時代になつてほしいベスト3を発表します。

まずは第三位 若者よもつと強くなれ
最近の若者はすぐに骨が折れるらしい。もつと牛乳飲んで強くなつてこれからのをひっぱって行って欲しい。まっ、自分もやせているんですけどね。

続いて第二位 よりよいくらしを

誘拐・殺人・宗教そのたいろいろありますよね。自分のことだけじゃなくて他人のことでも考えて生活しましょう。

された本である。高校生にもなつて読書感想文かよ、と思いつつ何気なく読み始めた。学校指定の本だから、と
うせ面白くないだろうと期待はしていなかつた。だが、
この本は今迄の本とは違つていた。本を読むことによつ
て目頭を熱く感じたのは、この時が初めてである。読み
終えた時のあの感動と興奮を忘れられず、三年経つた今
でも何度も読み返している。この本は、現代人の辞書に
はもう失われてしまつてゐるのではないかと思われる
「犠牲」がテーマとなつてゐる。主人公であり、熱心な
キリスト教信者である信夫は、イエス・キリストの言葉
「ほんとうの愛」即ち「犠牲」を命を懸けて実践したの
てある。皆さんにも、この本を是非一読してもらいたい
と思う。そうすれば、私と同じような感動を感じてもら
えるてあるう。そして、「良く生きる」とはどういう事
なのか分かつていただけれると思う。

最後に一言、「柄にも無く、真面目な文を書いてしま
いました。でも本当にいい本だから、皆さん是非読んでみ
てください。」

自由投稿

韓国旅行（ゼミ旅行）

二回生 太田 真文

ゼミの最初の授業の時、思わず自分から旅行に行きたいと言ってしまった。そして何故かゼミ幹事になってしまった。楽だと思っていたらそれがいとかなり忙しいではないか！。国内旅行ではなく海外旅行の為、手続きがより厄介だった。しかも試験期間中。

試験も終わり、ようやく出発の日。荷物の最終チェックをしている時だった。パスポートがないのに気づいた。といった具合に飛行機の席につくまでに様々なドラマがあった。離陸の時、本当に日本に帰ってこれるのかと思っただけで良かった。

韓国一日目

現地の案内人が迎えに来てくれた。その名も「金さん」。最初は観光客のおきまりのコースの免税店や市内観光などであった。やたら免税店のオバサンがブランドの商品をあれやこれやと日本語で薦めるが、我が貧乏旅行の連中が買うはずがない。その買わない態度を見たせいか、相手も何かと買わせようと韓国語でヒソヒソ話を始めた。しかし、我がゼミの李先生。中国人でありながら韓国語、英語、日本語というように完全に聞きとり、話せるという頭脳に優れているお方が免税店のオバサンに韓国語で

「作戦たてても買わないよ！」と言った時、「カカカ、カコイイ！」の一言であった。ホテルについてからみんなで本場の焼き肉を食べに行つた。「オオーこれがテレビで見た骨付きカルビだー」言うとは何故か不思議に声をあげ「うめーうめー」と言いながら我が身を忘れて食べ始めました。そして、韓国の初日の夜も朝まで飲み会でした。

韓国二日目

韓国と北朝鮮の国境、「板門店」に行つた。そこは国連軍と韓国軍の完全武装地帯であり厳重に守られている地域である。国境にはいるにも厳しい軍もチェックがはいる。しかも一番驚いたのは、服装でジーンズの青がまじっているのは禁止であったということであった。いざ、国境に入るときも軍の完全武装した装甲車が私達のバスの前後にびつたりつくというなんともいえない緊張感であった。又、一枚の紙を渡され、その内容を見てみるとなんととも言えないいえない内容だった。「捕虜、亡命、死亡となつても我軍はこれをいっさいを保証しない。」と書いてあり、これはほんでもない所に来てしまったと思つたぐらいであった。その緊張感のまま見学して回つた。すると、北朝鮮の兵士がたえずじろじろとこちら側を監視されているのがわかつた。今回のツアーで唯一、生きた心地がしない日でした。そして、また夜は飲み会であった。夜ご飯はこれもまた「本場韓国ビビンバ」であった。相当美味かった。

韓国三日目

三日目は各個人の自由行動であった。みんな思い思いの買い物や観光に楽しんでた。買い物はとにかく日本よりはるかに物価が安い事である。何所の店もバーゲンしているかのごとく勘違いしてしまうほどだった。僕はあまり買いたい物はしなやかわりに「食」に友人と走った。特にその地元にはかない屋台に行ってみた。とても美味しかったのは豚の腸の中にいろんな物を入れ混ぜて食べるものが自分にとって最高であり格別な味でした。その夜もお腹は一杯だったのですが、また深夜まで飲み会でした。

韓国四日目

最後はみんなと一緒にソウルタワーに登りました。そこはソウル市内を一望でき、とても眺めが良かったです。帰りのタクシーの時、運転手のオジサンがかなりスピードをだしまくって、韓国の人は気が荒いと思ったぐらいでした。昼、また本場の韓国の冷麺を食べた。その帰りであった。ソウル市内は特に地下道が多く、人通りも多い為観光客を狙った「スリ」が多い所もある。よりによって最後の最後にグループの一人の女の子が財布をすられてしまった。この四日間を締めくくる日におきてはいけない事がおこった。なんとも後味悪い旅行になってしまったが、各個人に色々な経験をさせてくれ、考えさせられるような旅行であったのは間違いないとおもうことでした。

苦手二つ

一回生 神山まい

私は、作文が苦手だ。小中高の夏休み課題や何かの感想を書かなければならない時、いつも悩んできた。得意な人はすらすらと用紙が埋まっていくのだが、私の机の上には、何度も書き直した後の汚れた原稿と消しゴムのくずがたまっていた。

作文が苦手な理由の1つとして、長く書くことが出来ない、というのがある。言い換えると、文章が短くなるのだ。頭の中で考え、文章化すると、自分が思っていたより妙に簡単に文章化されてしまう。すると、そこに全てが凝縮されてしまうように感じ、付け加えようとすると、それが蛇足的に思えてくるのである。

こうした傾向は作文に限ったことではない。普段、人と話す時でも、言葉少なになることがある。そのような時は、物事を深く考えていないのではなからうかと相手は思っているだろう。そういうわけでもなく、よく考えているつもりなのだが。

このようにみてくると、ひよつとして私は自己表現能力に乏しい人間ではないだろうかという思いにかられる。これは少し厄介だ。他の人が、自分の考えを百パーセント相手に伝えられるとは思わないが、スムーズに、かつリズムカルなコミュニケーションを図るには必要な事だろう。

最近はコミュニケーションの手段が多様性を帯びてきた。初めは言葉のみだったのが、手紙や電話が出現し、今ではパソコン通信も広く用いられている。便利な世の中だと思いつながら、実は私

は電話が苦手である。携帯電話がこんなに普及しているのにおかしな話と思うかもしれないが、苦手なものは仕方がない。なんといつても、相手の顔が見えないのが良くない。そのために、私は必要以上に攻撃的なものの言い方をしてしまう。それになんとか態度かよそよそしい。さらに、電話で沈黙は間が悪く、非常に重い。だが、それにも増して嫌なものは、電話での勧誘で、私は彼らの丁寧な説明を根気強く聞き続けるような寛大な心を持ってはいない。しかし立場を逆にすると、これほど都合の良いものは他にないように思われる。

苦手なものは、絶えず増えていくようである。苦手克服と無理をいわず、せめて苦手と上手く付き合っていくことを目指したい。

幼き頃

「まあ、かわいい男の子ですね。」

「いえ、女の子なんですよ。」

「え！？、失礼しました。」

私か小さい頃はこんな会話は日常茶飯事でした。私が男の子、兄が女の子とよく間違えられました。その証拠に母が私の誕生日に可愛いフランス人形をプレゼントしても私は、

「お兄ちゃんみたいなガンダムがいい。」

と言っていました。バッチリ、テーフにも入っています。本当に

古堅 瞳子



男の子みたいでした。人形よりも、アトムやロボット。毎日、赤や黄のズボン。おまけに力持ちで、腕相撲も兄より強かつし。兄がなぜ女の子と思われたのか分かりませんが、多分私のほうが勇ましく見えたのでしょう。写真や人形とでわなくロボットとうつっていたのでしょうか。両親はかなり心配し、将来この子はどうかってしまふのだろうとひやひやだったそうです。でも今はちゃんとした乙女になっていますよ。

小さい頃は、仮面ライダーや、五人組のヒーローのような世界征服をたくらむ悪者を倒す、いかにも男の子が好むテレビ番組が好きでした。仮面ライダーは当時、日曜日の朝十時にやっていました。父が、

「ちゃんと勉強しない子には見せないよ。」

と言って、私はそれが見たいがために勉強をしていたのを覚えています。勉強をしない私にとつては良い効果でした。五人組で一番好きだったのがバイオマンとチェンジマン。歌（ハートに火がつくぜ、燃え上がるぜー、〈チェンジマンより〉）や、内容も覚えていきます。それがある時にはいつも早く家に帰って見ていました。別に大きくなったらこんなカッコいい人になりたいというのはなかったのですが、心の中のヒーローでした。見すぎて同級生の男の子を投げ飛ばして泣かしたこともありました。今思い出すと少し自分が恐いこともあります。

小さい女の子って普通、大きくなったら何になりたい？って聞か

れたら、だいたい、お嫁さん、看護婦さんでした。食べるのが大好きな私はなんであんなのになりたいんだ？パンとかケーキとか売れればいいのに。そしたら売れ残りがいっぱい食べれると、頭の中がいっぱいでした。本当に昔から色気より食い気だなあーと感じる今日この頃です。

いつもこんな男の子みたいじゃなかったんです。可愛い面もありました。愛する弟の世話もよくやっていたし。いやーいい姉です。今の私があるのも昔があつたからこそ。もつと女を磨くぞ！

年間行事

福岡大学書道部展

二年 三好 幸弘

十二月十四日から十九日の五日間福岡県立美術館におきまして我が部の最大行事である福岡大学書道部展を行いました。今年はバラエティーにとんだ作品展にしようと言うことで仮名や刻字といった新しい試みをしました。また情宣活動におきましてテレビなどのマスメディアを使い多にアピールできたと考えています。

今年は強化練習を始めるのが遅くなりましたが先生や先輩方の御指導や同輩同士の切磋琢磨や部員達の部展を成功させようという思いと練習で県美に飾れるような作品ができあがりしました。

十二月十三日、先生の御指導のもとに搬入をしました。自分達の作品が額に入れられて飾られると今年一年間部員と共にがんばってきたことを思い出しました。

十二月十四日から最終日まで自分たちで受付をし、多くの人に作品をみていただきました。そして私達はこの部展を通して一歩前進したような気がします。私達は二年役員ということで部員には本当に迷惑をかけてきました。来年には四十周年もひかえているので今の現状に満足することなく日々努力していきたいです。

最後になりましたが、福岡大学書道部展を開催するにあたり多大なるご尽力を賜わりました関係者各位に厚く御礼もうしあげます。



○夏季合宿

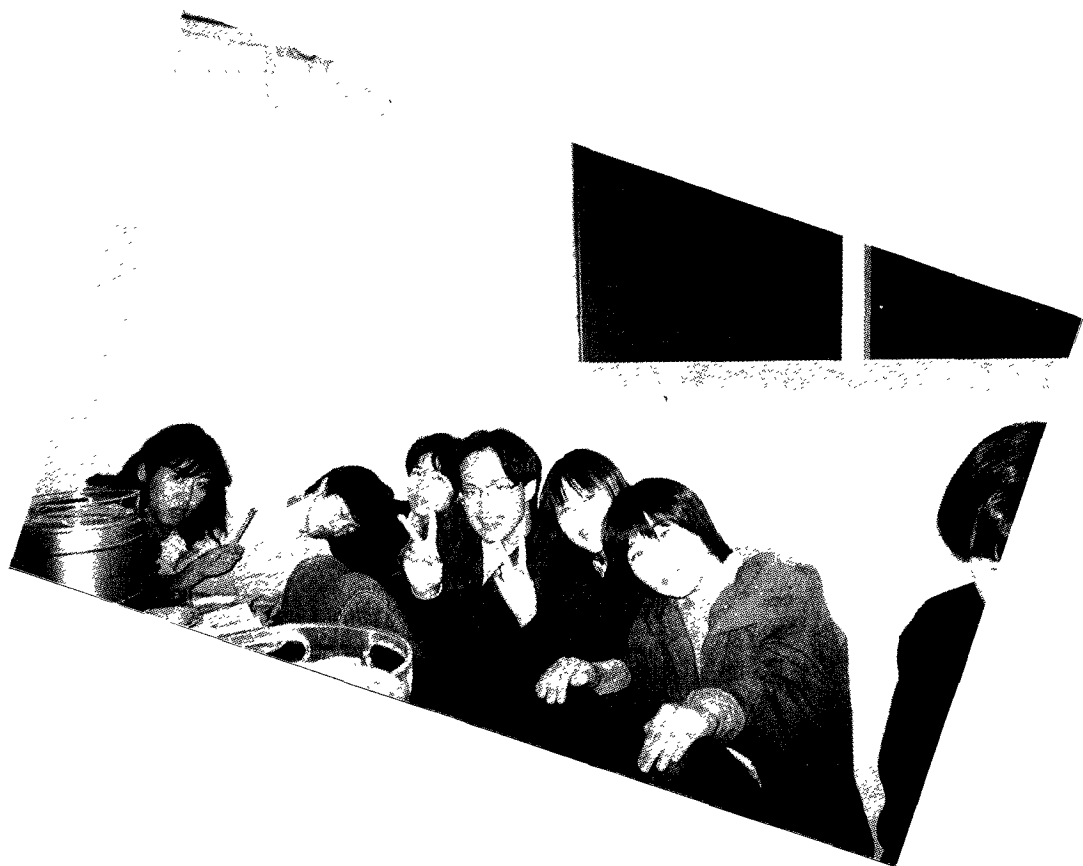
二年 川原敦志

平成11年九月一日から四日まで三泊四日の間、テーマ「臥薪嘗胆」を掲げて夏季合宿を行った。場所は、佐賀県北山少年自然の家である。この環境はたいへん素晴らしく、山の自然の空気を吸って生活できるという特色をもっている。私は、このような環境の中で生活するのは、たいへん好きである。

さて、この合宿におけるテーマ「臥薪嘗胆」の意味は目的を成し遂げる為に、一生懸命努力する、というものである。そういうテーマの下で夏季合宿は行われた。

今回の合宿は、書き込みを中心とした物で、一日のいたい半分は練習という形で行った。時には、息抜きの為にレクリエーションを行ったりして皆一緒に楽しんだりと言うようなこともした。

こういった事を企画の仕事として努めてきたわけだったが、私自身とても満足している。それは、自分を中心に役員皆で考えた合宿の計画を、他の部員がそのとうりにきちんと行動してくれたからである。又、レクリエーションの時などでも、私が考えたゲームへさほどおもしろいものではなかったのだが、皆一緒にやってくれた、というのが今でもうれしく思っている。



書道の方でも、一年生を始め、皆全て上達しているように見えた。このことに関して、参加してよかったという声を聞いたときは、どれだけうれしかったか計り知れない。

よって繰り返し返すが、合宿に参加してくれた皆が、終わった後に「たのしかった」とか「おもしろかった」などという声を頂いたときは、企画としては本当に、この上ない喜びを感じてしまうものだと思っている。



規約

福岡大学学術文化部会書道部

第一章 名称及び目的

- 第一条 本部は福岡大学学術文化部会書道部と称し、本学学生による書道愛好者の団体である。
- 第二条 本部は部員相互の親睦融和を図り、人間形成をめざすと共に書道文化の普及、書技の向上を目的とする。

第三条 本部は前条目的を達成するために次の事業を行う。

- 一、書道に関する事業
- 一、書道に関する調査並びに機関誌などの刊行
- 一、関係団体との親睦並びに連絡提携
- 一、各種展示会出品
- 一、その他前条目的達成のため必要と認めたる事業

第二章 組織

- 第四条 本部は講師及び部長を各一名置く。
- 第五条 本部は幹事、副幹事、会計、企画、庶務、渉外、その他必要とする役職を置き、本部を代表する。
- 第六条 本部は次の機関を置く。
 - 一、役員会
 - 一、部員総会
 - 一、OB会、但しOB会規約は別に定める。

第三章 役員会

第七条 役員会とは、部の円滑なる運営を期するための機関である。

第八条

本会は原則として、第五条に基づく役員によって構成される。但し、第五条に基づく役員以外であっても幹事が認められた場合には、本会に出席することが出来るが議決権はないものとする。

第九条

本会は幹事によって召集され代表される。

第十条

本会は毎月一回開くことを原則とする。

第十一条

本会の議決は部員総会の決定を妨げるものではない。

第四章 部員総会

第十二条

本会は本部の最高議決機関である。

第十三条

本会は本部の部員によりこれを構成する。

第十四条

本会は必要に応じてこれを開き、幹事がこれを兼務する。

第十五条

本会の議長は原則として、幹事がこれを兼任する。

第十六条

一、本会は部員の過半数をもって成立する。

一、本会の議決は出席者の過半数の賛成を必要とし、可否同数の場合、幹事がこれを決定する。但し、出席者の過半数の賛成で重要事項とし、その決定には出席者の三部の二以上の賛成を必要とする。

第十七条

本会不成立の際、出席者の三分の二以上の賛成をもって仮議決することが出来る。但し、

- 一、仮議決については事後部員総会において過半数の承認を必要とする。
- 一、重要事項は仮議決することが出来ない。

第五章 役員

第七章 会計

第十八条 役員構成は第五条に同じ。

第十九条 第三条に基づき、外部関係諸団体へ役員を派遣することが出来る。

第二十条 幹事は本部を代表し、副幹事は幹事を補佐し、幹事に支障ある時はその職務を代行する。

第二十一条 本部の役員改選は選挙制にし、これを重要事項と認め部員の無記名投票による選挙を行う。但し、委任状は認めるが、委任の方法は年度によって異なっても良いものとする。

第二十二条 本部の役員の任期は四月一日より翌年三月三十一日までとする。但し役員改選後、翌年三月三十一日まででは代行期間とし、その責任は新旧両役員と連帯責任とする。尚、欠員が生じた場合これを補充する。

第二十三条 役員改選は原則として十月に行う。

第六章 役員の仕事

第二十四条 役員の仕事は次の通りである。

- 一、幹事は部務を処理し、部を統括する。又、部の代表責任者であり、その責任を学術文化部会と部全体に負う。
- 一、副幹事は幹事を補佐し、幹事に支障ある時はその任務を代行する。又、福岡大学書道部OB会の事務を担当する。
- 一、会計は部費徴収並びに部費予算に関する収支の記録決算書を作成。
- 一、企画は第一章第二条に定められた本部の目的にそって諸活動を企画する。
- 一、庶務は本部の活動に必要な諸事務を行い、資料の収集保管をなし、機関誌の発行を行う。但し機関誌の発行は年一回とする。
- 一、第五条第十九条に基づく役員は、本部関係諸団体との親睦融和を図り部の向上を目指す。

第二十五条 本部の会計年度は四月一日より翌年三月三十一日までとする。

第二十六条 本部の部費その他の所定納入金については、前年度末に部会において決定しなければならない。

第二十七条 会計報告は会計が行う。又、部員の要求に応じて会計簿を公開し、年一回決算報告書を作成し、これを報告する。

第八章 部員の権利義務

第二十八条 本部の部員は次の権利を有する。

- 一、本部のあらゆる活動に参加し、人間形成の場として利用すること。
- 一、本部の部員総会に出席し、その議決に参加すること。
- 一、本部における選挙権、被選挙権を有する。
- 一、本部の備品及び図書を利用すること。
- 一、部員は次の義務を負う。
 - 一、部員は部員総会に出席すること。
 - 一、但し、やむなく欠席する者は事前に欠席届を幹事に提出しなければならない。
 - 一、部員は部費その他の所定納入金を定期に納入すること。
 - 一、本部の規約に従うこと。

第九章 入部、退部

第三十条 本部の入部は年度始め募集することを原則とし、学文会登録及び入部金の納入をもって部員とする。

第三十一条 部の退部は書面をもって幹事に願い出て、役員会の承認を得、部員に通達する。但し退部を希望する者は、その在籍期間までの所定納入金を完納すること。

第十章 罰 則

第三十二條

書道を研究する熱意なく本部の名譽を汚したる者、部活動を理由なくして一ヶ月以上怠った者、又、部の秩序を乱す者は部より除名する。但し、欠席届提出者についてはこの限りではない。

第十一章 規約改正

第三十三條

本部規約改正の發議は部員總會において部員の四部の一以上の同意により總會の議決を経て行われる。尚、改正においては、本部員の三分の二以上の出席を必要としその出席者の三分の二以上の賛成を必要とする。

第十二章 附 則

一、本規約は昭和三十五年より実施、昭和四十五年四月一日改正。

福岡大学書道部書心会
(規約)

第一章 総 則

第一條 本会は福岡大学書道部書心会と称する。
第二條 本会は事務局(本部)を福岡大学書道部に置く。

第二章 目的及び事業

第四條 本会は會員相互の親睦を図り、書道文化の普及、向上に努めると共に福岡大学書道部の後援を行う。
第五條 本会は前條の振興に關する為次の事業を行う。
一、書道の振興に關する為次の事業を行う。
二、書道に關する研究、発表、及ひ連絡提携の刊行。
三、書道に關するの出版物、及ひ連絡提携の刊行。
四、書道に關するの出版物、及ひ連絡提携の刊行。
五、書道に關するの出版物、及ひ連絡提携の刊行。

第三章 組 織

第六條 本会は正會員は福岡大学書道部員として登録をなす。卒業したる者をも補って構成する。但し強制する者ではない。
第七條 本会に、總會、評議委員會、及ひ事務局を置く。

第四章 役 員

第八條 本会は次の各号の役員を置く。
一、會長(一名)
二、副會長(一名)
三、評議委員長(一名)
四、評議委員(三名)
五、事務局次長(一名)
六、事務局員(一名)
七、監査委員(一名)
八、庶務委員(一名)

第五章 役員職務

第九條

一、本会は次の職務を行う。二、副会長は会長を補佐し、且つこれを代表する時は、その職務を代行する。三、評議委員会は統括し、且つこれを代表する。四、副議長は議長を補佐し、且つこれを代表する。五、評議委員は議長を補佐し、且つこれを代表する。六、事務局長は、事務局長を補佐し、且つこれを代表する。七、事務局長は、事務局長を補佐し、且つこれを代表する。八、事務局長は、事務局長を補佐し、且つこれを代表する。九、事務局長は、事務局長を補佐し、且つこれを代表する。十、事務局長は、事務局長を補佐し、且つこれを代表する。

第六章 總會

第十條

一、總會は、總會の最高議決機関である。二、總會は、總會の最高議決機関である。三、總會は、總會の最高議決機関である。四、總會は、總會の最高議決機関である。五、總會は、總會の最高議決機関である。六、總會は、總會の最高議決機関である。七、總會は、總會の最高議決機関である。八、總會は、總會の最高議決機関である。九、總會は、總會の最高議決機関である。十、總會は、總會の最高議決機関である。

第七章 評議委員会

第十一條

一、評議委員会は、評議委員の組織及び決議機関として、本委員会を置く。二、評議委員は、評議委員の組織及び決議機関として、本委員会を置く。三、評議委員は、評議委員の組織及び決議機関として、本委員会を置く。四、評議委員は、評議委員の組織及び決議機関として、本委員会を置く。五、評議委員は、評議委員の組織及び決議機関として、本委員会を置く。六、評議委員は、評議委員の組織及び決議機関として、本委員会を置く。七、評議委員は、評議委員の組織及び決議機関として、本委員会を置く。八、評議委員は、評議委員の組織及び決議機関として、本委員会を置く。九、評議委員は、評議委員の組織及び決議機関として、本委員会を置く。十、評議委員は、評議委員の組織及び決議機関として、本委員会を置く。

第八章 事務局、會計

第十二條

一、本会の執行機関として、本事務局を置き、本事務局役員より、事務局長を選任する。二、本会の執行機関として、本事務局を置き、本事務局役員より、事務局長を選任する。三、本会の執行機関として、本事務局を置き、本事務局役員より、事務局長を選任する。四、本会の執行機関として、本事務局を置き、本事務局役員より、事務局長を選任する。五、本会の執行機関として、本事務局を置き、本事務局役員より、事務局長を選任する。六、本会の執行機関として、本事務局を置き、本事務局役員より、事務局長を選任する。七、本会の執行機関として、本事務局を置き、本事務局役員より、事務局長を選任する。八、本会の執行機関として、本事務局を置き、本事務局役員より、事務局長を選任する。九、本会の執行機関として、本事務局を置き、本事務局役員より、事務局長を選任する。十、本会の執行機関として、本事務局を置き、本事務局役員より、事務局長を選任する。

第九章 入会及び退会

第十三條

一、入会については、第十七条に該当するもので且つ、本人の申し出によるものとする。二、退会については、本人の申し出によるものとする。三、退会については、本人の申し出によるものとする。四、退会については、本人の申し出によるものとする。五、退会については、本人の申し出によるものとする。六、退会については、本人の申し出によるものとする。七、退会については、本人の申し出によるものとする。八、退会については、本人の申し出によるものとする。九、退会については、本人の申し出によるものとする。十、退会については、本人の申し出によるものとする。

第十章 規約改正

第十四條

一、本規約の改正は、評議委員会の審議を経て総会出席者の三分の二以上が賛成を得なければならない。二、本規約の改正は、評議委員会の審議を経て総会出席者の三分の二以上が賛成を得なければならない。三、本規約の改正は、評議委員会の審議を経て総会出席者の三分の二以上が賛成を得なければならない。四、本規約の改正は、評議委員会の審議を経て総会出席者の三分の二以上が賛成を得なければならない。五、本規約の改正は、評議委員会の審議を経て総会出席者の三分の二以上が賛成を得なければならない。六、本規約の改正は、評議委員会の審議を経て総会出席者の三分の二以上が賛成を得なければならない。七、本規約の改正は、評議委員会の審議を経て総会出席者の三分の二以上が賛成を得なければならない。八、本規約の改正は、評議委員会の審議を経て総会出席者の三分の二以上が賛成を得なければならない。九、本規約の改正は、評議委員会の審議を経て総会出席者の三分の二以上が賛成を得なければならない。十、本規約の改正は、評議委員会の審議を経て総会出席者の三分の二以上が賛成を得なければならない。

第十一章 附則

第十五條

昭和五十九年一月十六日から施行する。

SINCE 1501・室町文亀元年創業

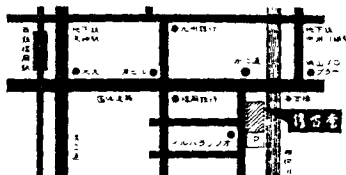


平助筆 復古堂

〒810 福岡市中央区春吉3-3-9

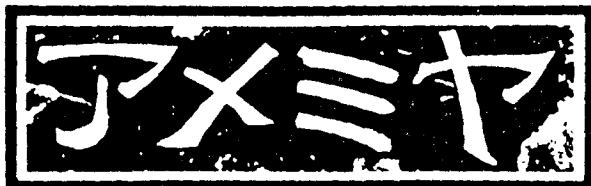
TEL 092-761-5122代

FAX 092-761-8367

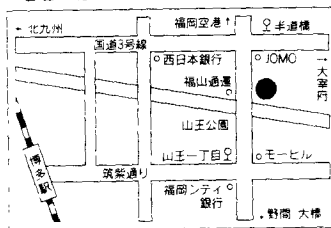


—— 駐車場完備 ——
大丸デパートより徒歩5分

- アトリエメニュー
- 書画用筆墨硯紙・香色紙・短冊・料紙
- 和文具・書籍
- 額・表装・貸額
- 搬入出引受
- 赤ちゃん筆、御用命承ります



福岡店



書道用品と表装は

アメミヤとお決め下さい！

書道専科！安さご満悦を！

福岡市博多区半道橋1-1-5 (毎週火曜定休) ☎092-451-2127

美術表装・ギャラリー

晚香堂

☎ 092(741)0897

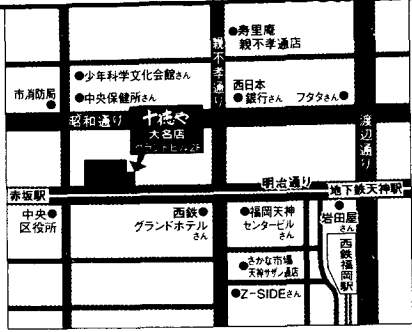
●営業時間 平日 午前10時～午後6時30分
日祭日 午前12時～午後6時

〒810 福岡市中央区大濠1丁目3-5 サンリッチ大濠1F
(福岡气象台ヨコ)

駐車場有り

福岡市中央区大名2丁目9-5グランドビル2F

 ☎092-713-6544



たばこ・食品・日用品

福大前メイン・ショップ

城南区片江5丁目45番15号

TEL 092-861-1577

中ノ子博多人形

書道用具専門店

雲峯堂

〒810 福岡市中央区天神1丁目1-1
 アクロス福岡B1
 電話 (092) 725-1101(代)
 FAX (092) 725-6924

書道用品専門・額

松花堂

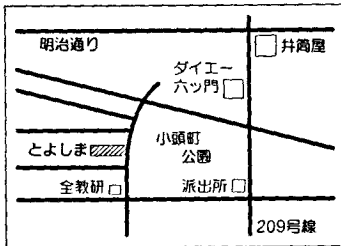
〒810-0041 福岡市中央区大名1丁目12-62
 大一斉藤ビル3階
 TEL (092) 714-0729



書道用具・軸・額
 表装工房とよしま
 〒830-0045 久留米市小頭町5-13
 TEL・FAX 0942 (37) 8833

- デザイン表装
- 展覧会企画
- 古物お直し

着物古装を
 お洒落に表装
 しませんか？



書道用品専門

株式会社

尚文堂老舗

〒810-0041 福岡市中央区大名2丁目1-52

西鉄グランドホテル裏通り

TEL 092-741-6293

FAX 092-741-6299

編集後記

第四十号「荒鷲」をすることが出来ました。

今回の荒鷲の作成にあたりましては部員の思っている事、考えている事、したい事といった様々なことを書いてもらいました。各個人の個性あふれる内容になっていると思っております。本年度の役員は二年生が中心となっています。本年度の役員は二年生が中心となつて活動してきましたが、まだ経験不足のせい、各行事をやりこなすので精一杯で先輩方に大変ご迷惑をおかけしました。又、最大行事であります福岡大学書道部展はなんとか無事に成功することができ、今年二千年は福大書道部創立四十周年をむかえにあたり、書道をとおして色々な体験、経験をし、部員一同成長していきたいと思っております。まだ未熟ではありますが、なにとぞご指導宜しくお願いいたします。

最後になりますが、本号「荒鷲」の発行に際し、御協力頂きました関係者各位の方々に、部員一同感謝し、心より厚くお礼申し上げます。

第三十九代庶務 太田 真文

福岡大学学術文化部会書道部
機関紙 第四十号「荒鷲」

平成十二年度三月 発行

発行責任者 三好幸弘

編集責任者 太田真文

発行

福岡大学学術文化部会書道部

住所

〒814-0180

福岡県福岡市城南区七隈

八十九-1

TEL (〇九二) 八七一〇四七二

印刷所 (有) いずみプリンティング

山口県山口市旭通り二一六一四

TEL (〇八三九) 二四一四六七〇